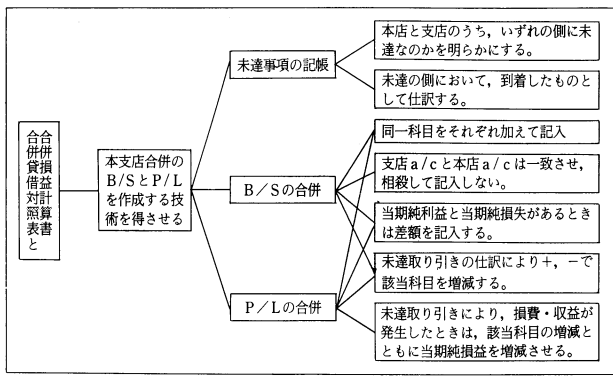


「本支店間の取り引き」

導 入	展 開	終 末
支店会計の独立によって経理上どのような変化が生じるかを考えさせる	① 日借取り引きの記帳 (1) 本店「支店 a/c」の意味 (2) 取 引 ② 買掛金払い ③ 商品送付 ④ 損益 a/c への記入 純損益を本店に振替 ① 損益 a/c への記入 ドリル学習	① ドリルの解 答説明 ② 仕訳公式のまとめ

「指導事例その二」  
 「支店相互間の取引」(この項省略)  
 「合併 B/S と合併 P/L」(四時間)  
 「指導事例その三」



「合併 B/S と合併 P/L」(その一)

導 入	展 開	終 末
	一、未達事項の仕訳 ・本店と支店のどちらの側に未達か、はきりさせることにより正しい仕訳をさせる。 ・未達の側において、到着したものとして仕訳したものを 二、合併 P/L の作成 ・営業費は直接 B/S に増減の変化をもたらささいが、当期純利益から引くことを強調 三、家庭課題を提示	一、ドリルの解 答説明 二、合併手順のまとめ

「合併 B/S と合併 P/L」(その二)

導 入	展 開	終 末
	一、家庭課題 ・未達仕訳による収益・費用の該科目を +、一で増減し、修正する。 ・収益・費用科目の増減により、当期純損益も増減の修正をする。 二、公表用の P/L の作成 ・当期純利益と当期純損失の差額を記入する。 三、ドリル学習	一、ドリルの解 答説明 二、合併手順のまとめ ・合併 P/L から公表用 P/L を作る時、転記ミスなどないよう注意 三、家庭課題を提示

三、おわりに

以上三つの事例をあげたが、日ごろ指導していて感じることは、簿記科目を指導する場合には、一時間の授業の中に教師が説明する時間と、そのほかに、生徒に問題を解かせるドリル学習の時間を必ず毎時間設けてやる必要があることである。

生徒はドリル学習において、教師の説明を問題をときながらたしかめ、疑問を解決しようとしてわからない生徒はわかる生徒にたずね、わかる生徒は教えて、正答を導き出そうと真剣に取り組んでいる。小声での自由討議、自由に席を立つてもよいとしているこのドリル学習の場面には、わからないなりに学習の主体者としてのいきいきとした生徒の姿があり、活気が感じられる。また、教師のまとめの発問に対して、たしかめようとする生徒の反応が返答やノートの要点をまとめる確認動作にはつきりうかがわれる。

なお、ここでは学習目標に対する評価のとらえ方や、評価の結果を次時の授業に生かすにはどのように結びつけていったらよいか、などについて不備なので、今後それを合わせてさらに研究していかなければならないと考えている。

簿記会計について二人の指導事例を紹介したが、生徒の学習意欲を喚起し生き生きとした学習活動を展開するた

めの創意くふうは、他の科目分野においても多くの先生がたによって研究努力が続けられている。「教える」という仕事は、「わからない」状態から「わかった」状態へ推移し得るように情報を与え、知的活動を喚起し、誘導することである(東洋教授)とすれば、そのための手順を、どのように準備し、どのように実践するかは、今後とも「教える」人々の最重要課題であり続けるだろう。

最後に、せっかく論稿をいただきながら紙幅の都合で割愛せざるを得なかった諸先生の労に謝しつつ紹介しておきたい。

「商業一般において、導入時に中学校の教材を活用した指導事例」  
 若松商業高等学校教諭  
 独 鈞 悟

「商事の效果的班別指導」  
 保原高等学校教諭  
 引 地 洲夫

「自作ノートを活用した、商業法規の效果的指導法について」  
 若松商業高等学校教諭  
 横 山 俊雄

以上である。